

インターバンクの声（2017年6月8日）

今週の火曜日以降、ニューヨーク市場が動き始めて、ドル円が109円台半ばで取引されているのを確認してから就寝しているが、昨日も今日の朝も起きてまず確認したのは、ドル円が108円台に下落しているかどうかだ。特に昨日は東京時間の夕方に109円12銭までドル売りが進んでおり、英下院議員選挙やFBI前長官の公聴会といったイベントを前にリスク回避姿勢が強まっているとあっては、どう見ても円買いに傾き易いと思われるからだ。

今朝も起きて直ぐに、社内のニューヨーク時間担当のディーラーと109円台で取引されているのかどうかを確認。原油価格の急落やNYダウが日本時間の午前2時頃まで軟調だったことで、ドル円も109円20銭台～60銭台レンジの中で2往復したが、その後、コミー前長官の冒頭証言原稿が公表され、目新しい情報が含まれていないことが影響したのか、109円台後半までドルが買い戻されている。

ただ、簡単には110円台を回復しそうにも見えず、次の展開は英下院議員選挙の行方を見てからになりそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。